世界とふれあい グローバル感覚を磨く

日本紙通商株式会社
貿易本部副本部長
井上 雅樹さん
創価大学法学部卒業

Masaki Inoue

いのうえ・まさき／一九六〇年佐賀県生まれ。一九八四年、創価大学法学部卒業。同年、㈱サンミック通商（現・㈱日本紙通商）入社、外国部に配属される。一九九五年、香港支店に赴任。一九九七年の香港返還とアジア通貨危機など、世界経済の大激動を目の当たりにする。二〇〇〇年、貿易・海外本部課長。二〇〇八年、同紙貿易一部長。二〇一四年、同副本部長兼貿易一部長。

創価大学は、開学以来、国際交流に力を入れ、これまで世界四七カ国・地域の一四八大学と交流協定を結び、二〇一三年度は長期・短期を含め八〇〇人を超える学生が海外留学を経験しています。文科省の「グローバル人材育成推進事業（現「経済社会の発展を牽引するグローバル人材育成支援」）」にも採択され、本年度は授業を英語で行う国際教養学部も新設。卒業生は、国際機関や法曹界をはじめ国内外のさまざまな分野で幅広く活躍しています。

「わが社の親会社である日本製紙では〝紙をつくる。だから森もつくる〟として、南米や南アフリカ等の植林事業で木を育て、国内やアジアの工場で生産、そして販売網は世界中に広がっています」

身近な素材である紙――昨今、その紙は家具・建材や家電の回路基板に至るまで世界各地で幅広く使われている。

現在、日本製紙はタイの企業と合弁で、機能性特殊紙の工場を現地で立ち上げている。井上さんはそのプロジェクトで、製品の海外販路作りに携わっている。

機能性特殊紙とは、紙と異種素材を組み合わせるなどして耐水性や転写機能などをもたせた紙のことだ。製紙技術のなかでも日本が得意とする分野だそうだ。井上さんは入社以来、この特殊紙をはじめ、あらゆる〝紙〟の輸出入業務に携わってきた。これまでに訪れた国は二二カ国・地域の九五都市に上る。

「多くの国々で卒業生が、負けじ魂と創大卒の誇りをもって、活躍しているのには驚きます」

井上さんが海外での仕事に関心を持ったのは、大学二年のとき、自分の目で確かめたいと、ロシア語教育に尽力されていた酒井一之教授とロシア・ソビエト研究会の先輩に同行し旧ソ連を訪れたことがきっかけだった。当時のソ連は、アフガン侵攻を機に、八〇年のモスクワオリンピックではボイコット運動が起こるなど、世界から批判にさらされていた。しかし、実際に現地に行き、モスクワ大学の学生の討論会に参加してみると、自分が勝手に抱いていたイメージは見事に覆った。

「同年代の若者たちが、平和や人類の未来について、それぞれ意見をもっており、自らの勉強不足を知らされました」

海外のビジネスでは、飛行機が予定通り飛ばない、注文通りの製品が届かないなど、苦労も多い。

「グローバル人材と言いますが、語学力もさることながら、相手の気持ちを理解して何かをつくりあげていくコミュニケーション力が大事です。それには、臆せずチャレンジ精神をもって海外に行ってみるのが一番でしょう。人は人によってしか磨かれないというのが実感です」と力強く語る井上さんのその眼は世界と未来を見つめている。

本社のある東京・御茶ノ水ソラシティにて

創価大学
創価女子短期大学
〒192-8577　東京都八王子市丹木町1-236
Tel.042-691-2215　http://www.soka.ac.jp/

Soka Report ｜創立者の軌跡｜ 平和・文化・教育の世紀へ 39

創価大学の創立者・池田大作先生は40年前の1974年、冷戦下のロシア（当時・ソ連）を訪問しコスイギン首相と会見。日ソ友好、核廃絶など諸問題について語り合った。「あなたの根本的なイデオロギーは何ですか」との首相の問いに、創立者は「平和主義、文化主義、教育主義です。その根底は人間主義です」と答えた。モスクワ大学、ホフロフ総長とも友好を深め（写真）、翌'75年には創立者に「名誉博士号」が授与された。以来、モスクワ大学と創価大学は学術交流協定を締結し、交換留学が行われている。